

第 3 卷 PDF 読本



宗谷本線・函館本線

2024 年 2 月 13 日 歩く鉄道作家 樫原 勉

<目次>

はじめに

第1章 宗谷本線（稚内～和寒）・・・・・・・・ 4

第2章 宗谷本線・函館本線（旭川～小樽）・・・・・・・・ 5 2

第3章 函館本線（小樽～函館）・・・・・・・・・・・・ 9 5

はじめに

本著書は「こだわり鉄道つたい歩き」シリーズの初刊（東海道本線）、続刊（東北本線（仙台～東京）・山陽本線・常磐線）に続き 3 作目の作品です。これまでの 2 作はいずれも書籍によるものでしたが、種々の事情を勘案し、今回の第 3 作目からデジタル形態の PDF 読本としました。本作品は檜原勉文庫（カッシー館ブログで閲覧可能）で通算 1 2 作目となります。

こだわり鉄道つたい歩きとは、カッシー館でもご紹介している通り、九ヶ条から構成されます。

1. ウォークマンを聴きながら一人歩きを楽しむ
2. “鉄道案内人”に従って各駅を踏破する
3. メモや写真をとりながら筋書きのないドラマを楽しむ
4. 必殺仕事人の心境で歩く
5. 出発点は先憂後楽の考えに基づき決める
6. 歩く鉄道営業キロは季節を考慮して決める
7. 活動記録をとっている
8. 青春 1 8 きっぷを極力活用する
9. 東横インを極力活用する

第1章 宗谷本線(稚内＝和寒:223.1km)

第1節 旅プラン

下記の通り、8泊9日で宗谷本線の踏破に臨む。

旭川・・・和寒(39.9)＝名寄(45.3)＝天塩川温泉(32.1)＝佐久(22.2)＝問寒別(40.1)＝豊富(40.8)＝南稚内(2.7)＝稚内

① 6月20日(土) AD083便(5A) 羽田11:15 → 旭川12:50

旭山動物園観光(タクシーで移動) 東横イン旭川一条通泊(0166-27-1045)

② 6月21日(日) 旭川6:05→和寒6:56

和寒～東六線～剣淵～北剣淵～士別～下士別～多寄～瑞穂～風連～東風連～名寄(39.9)
ニュー富士屋ホテル泊(0164-2-2167)

③ 6月22日(月) 名寄7:50→南稚内11:51

南稚内～稚内(2.7km)

稚内の友人に宗谷岬やノシャップ岬等を案内して頂く
ホテル宗谷泊(0162-23-8200:谷田)

④ 6月23日(火) 南稚内6:08→豊富6:49

豊富～徳満～兜沼～勇知～抜海～南稚内(40.8) ホテル宗谷泊

⑤ 6月24日(水) 南稚内6:08→佐久7:54

佐久～天塩中川～歌内～問寒別(22.2)

問寒別17:17→豊富17:59

松屋旅館泊(0162-82-2526)

⑥ 6月25日(木) 豊富6:49→問寒別7:32

問寒別～糠南～雄信内～安牛～南幌延～上幌延～幌延～下沼～豊富(40.1)

松屋旅館泊

⑦ 6月26日(金) 豊富6:49→佐久7:54

佐久～箴島～音威子府～咲来～天塩川温泉(32.1)

天塩川温泉17:32→名寄18:24

ニュー富士屋ホテル泊

⑧ 6月27日(土) 名寄7:50→豊清水8:43

天塩川温泉～豊清水～恩根内～紋穂内～初野～美深～南美深～智北～智恵文～北星
～日進～名寄(45.3)

ニュー富士屋ホテル泊

⑨ 6月28日(日)

名寄 9:00→旭川 10:28 AD088 便(6A) 旭川 19:35→羽田 21:20

11時半頃のバスで旭川駅に。

第2節 1日目：平成27年6月20日(土) 晴れ

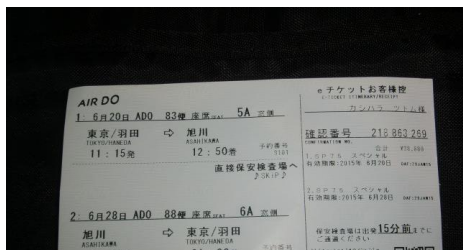
家内にさがみ野駅まで7時20分頃送ってもらう。さがみ野駅前で腕時計を忘れているのに気づき引き返す。横浜駅8時44分発の羽田空港行き(京急)で羽田へ。旭川空港には13時頃到着。



横浜駅



羽田空港



旭川空港に向けて



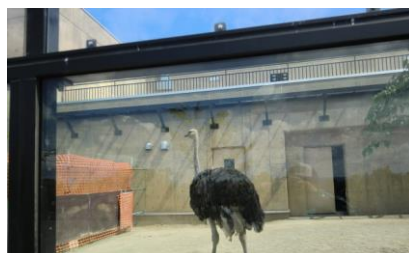
旭川近郊の水田



旭川空港

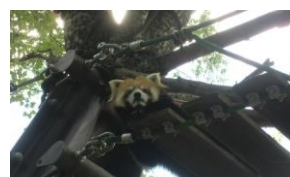
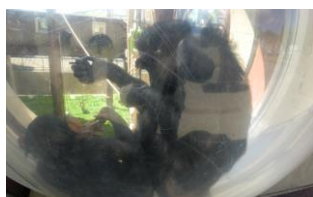
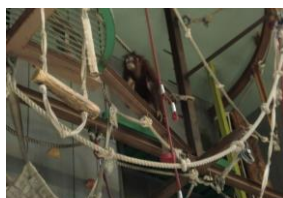
旭川駅、旭川空港、旭山動物園はそれぞれトライアングルの位置関係であった。ここから旭山動物園までの直通のバスはなかった。数年前まではあったそうであるが。バスを利用す

るのであれば、旭川駅まで戻り、そこから旭山動物園に向かうコースとなる。このプランだと2時間位余計アクセスを要する。それ故、タクシー（料金4,150円）で旭川市旭山動物園に向かうこととする。結果的に大成功。旭山動物園で少なくとも時間が取れるからだ。タクシーの中で、運転手の方といろんな世間話をする。「北海道ではこの界隈から南に向けて、コメの生産力は高い。そして、コメは名寄を過ぎるとできない。音威子府辺りから木々を中心に風景が変化する」と。

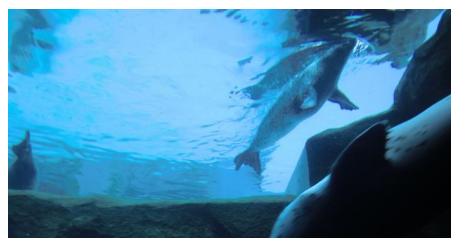
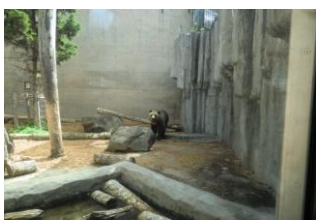


旭山動物園で重いリュックを背負い、3時間位色んな動物を観賞する。東北の旅のように腰が痛まなく安堵する。キリン、カバ、ダチョウ、ヤギ、オラウンタン、白くま、アザラシ、ペンギン、オオカミ、トラ、ライオン、孔雀・・・。この動物園の特徴は、種々のアングルから動物を観賞できるところにあった。このような観賞は生まれて初めて。北海道ならではの体験だろう。特に、かば、アザラシ、白くま館は印象的であった。園内の休憩場でソフト

クリーム（350 円）を。暑くなりかけた体を冷やしてくれた。16 時 30 分のバス（料金 820 円）で旭川駅へ。



駅前の東横イン（301号）には16時18分に到着する。動物園で購入した絵葉書（500円）でお袋や家内等にメッセージをかく。夜は大舟（4,698円）で旭川の夜を楽しむ。神戸からやって来た原田さんという若者、そしてマスターを交え、2時間位色々雑談する。原田さんが私より少し前に出る。ウォーキングの趣味の方が間もなく見えるとのことで、少し待機するが、来そうもないので私も退散する。英気を養うためにはいい夕食であった。明日からいよいよ稚内から和寒までの鉄道つたい歩きに挑戦するからだ。うきうきした気分で就寝する。



ペンギン館 あざらし館

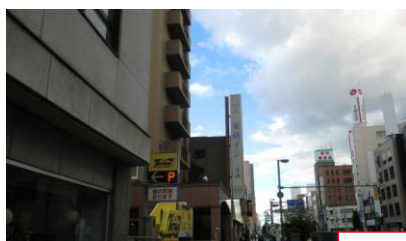




旭山動物園



旭川川



東横イン旭川



第3節 2日目：6月21日（日）晴れ

3時前に起床。昨夜、ローソンで購入した、パンとおにぎり朝食。残念ながら、東横インでの朝食は7時よりのため取れず。体調を整え、5時半頃ホテル（宿泊代5,950円）をチェックアウト。旭川発6時5分の稚内行列車（1両編成の非電化ワンマンカー）で和寒駅（6時56分着）へ。運賃は740円要する。この列車は昨年以來2度目である。



旭川駅



和寒駅 稚内 212 km



旭川～和寒までの風景は1年振りなので、懐かしかった。昨年、苦勞した駅舎が次々と登場。7時過ぎからウォーキング開始。地図を見る限り、東六線駅、剣淵駅、そして北剣淵駅は国道40号線に面しておらず、負荷を要するだろうと察知。それ故、用心して歩くことにする。和寒駅前で旭川212km、名寄40km、士別17kmの道路標識を目にする。7時11分、和寒中学校前を通過。その手前に東山スキー場の看板があった。7時20分、和寒跨線橋を通過。鉄道の右側を歩く。丁度、上り列車が通過して行く。7時47分、東9線バス停（道北バス）前を通過。ダイヤはザックリ2時間に1本位。7時53分、和寒町大成前を通過。日曜日ということもあり、国道40号線の車の量は先日の盛岡～仙台と同じ位多かった。7時55分、稚内208km、名寄36km、士別13kmの道路標識前を通過。ここまで、順調なペースでの歩きを展開。8時13分、私の万歩計で44歩ある和寒橋を通過。少し行くと、和寒町から剣淵町（カラスのマーク）となる。第六線駅への手前で庭木の手入れをしていた人（私と同じ位の年恰好）と2～3分、歩き関連の話をする。広大な私の野望に非常に驚いておられた。本日最初の東六線駅には8時29分到着。国道から500m位外れたところに駅舎があった。この道を再度戻り、再び国道へ。



和寒橋 第六線駅

9時5分、東三線を通過。番地が数値なので分かりやすし。よく観察してみると番地の割り振りに規則性があり。8時18分、道の駅「絵本の里けんぶち」に到達。9時30分、国道を左折し、東剣淵線に入る。9時36分、271歩ある剣淵橋（剣淵川）を渡る。9時58分、剣淵地下道を潜り、鉄道の左側となる。駅はこの交差点から300m位引き返したところにあった。剣淵駅には10時3分到着。



絵本の里 剣淵町



剣淵橋 剣淵駅

この駅の界限には、絵本の里を筆頭に色んな観光地があった。この駅から北剣淵まで、鉄道の左側のコースも考えたが、川があり難しいと判断。それ故、当初の予定通り、鉄道下を潜り、鉄道の右を歩くことにする。近道をしようとして、袋小路にぶつかる。近くにいた方に聞き、北剣淵駅への道筋について地図を見せながらお伺いする。10時26分、親切にも自転車で追い掛けてきて、「東剣淵ではないですよ」と確認に来られる。感謝感激する。78歩ある音無橋を渡る。左手200m位先に鉄道線路が確認でき安堵。非電化のため、このような検証作業は重要。とんでもない方向に進むと、リカバリーに負荷を要すると同時に往来の人がいないため、確認できない恐れあり……。11時40分、T字路を左折した先に北剣淵駅があった。



音無橋 北剣淵駅

この駅も、東六線駅と同様、ホームは板張りの粗末な駅であった。ホームの長さは20m～30m位。当然、照明がある雨風を凌ぐ駅舎ではなかった。丁度、上り列車がやって来る。地図を見る限り、ここから東風連駅近くまでは、国道40号線に沿っており、歩きやすそうな感じであった。それ故、距離的には3分の1(13.9km)だが、半分踏破したような気分になる。



剣淵川を渡ると士別市に



士別駅 道路に夢あるデッサン

12 時 1 分、310 歩ある十二線橋（剣淵川）を横切り、国道 40 号線に出る。12 時 6 分、剣淵町から士別市（南町）に入る。12 時 10 分。名寄 26 km、稚内 198 km の道路標識前を通過。12 時 30 分、「たけちゃん」でニンニクがたっぷり入った味噌ラーメン（730 円）を頂く。20 分位休憩。士別駅には 13 時 30 分到着。駅前の歩道はレールをイメージした感じであった。牛か馬のようなデッサンが歩道に幾つも描かれていた。



天塩川 赤い鳥居 下士別駅

13 時 45 分、名寄 22 km、美深 43 km、稚内 195 km の道路標識前を通過。13 時 52 分、北星スキー場看板前を通過。14 時 15 分、384 歩ある士別橋（天塩川）を渡る。14 時 25 分、士別跨線橋を渡り、鉄道の左側となる。14 時 37 分、赤い鳥居前を通過。下士別駅には 14 時 53 分到着。15 時 4 分、名寄 18 km、稚内 190 km の道路標識（栄橋）前を通過。15 時 11 分、110 歩ある多寄橋（タヨロス川）を渡る。緑色の屋根の多寄駅には 15 時 53 分到着。この駅を過ぎると民家がある街並みから急に山間となる。風をシャットアウトする開閉型の金属製の壁がここから続く。16 時 12 分、鳥居橋を通過。16 時 40 分、瑞穂駅に到着。



多寄駅 瑞穂駅



道の駅



風連駅

16 時 56 分、右手に列車と対面。その先に新寄号橋があった。17 時、士別市から名寄市となる。この地点は旭川から 66 km の地点とあった。17 時 27 分、もち米の里と記した道の駅でトイレ休憩とペットボトルを補充。17 時 48 分、風連駅に到着。18 時 11 分、旭川から 70 km 地点に到達。その近くに名寄 7 km、稚内 179 km の道路標識があった。18 時 40 分、61 歩ある小風連橋を通過。この辺りで国道 40 号線を右折。鉄道に近づく。非常に勘が冴えていた。この道を右折しないと東風連駅には行けなかったからだ。18 時 43 分、128 歩ある風連橋（風連別川）を渡る。丁度、この橋を上り列車が通過する。鉄道の線路を確認でき安堵。辺りは少し暗くなりかけていた。



風連橋



東風連駅



19 時、東風連駅に到着。鉄道に沿ったアカシア通り（538 号：旭名寄線）を歩く。19 時 15 分、徳田という地名を通過。19 時 25 分、白樺並木がある名寄高校前を通過。19 時 37 分、徳田橋通過。名寄駅には 19 時 55 分に到着。少し駅前で本日のホテルを探すのに戸惑う。偶然にも、駅前通りを歩いている人にお伺いし、ニュー富士屋ホテルを見つけることができる。駅から 2 分位歩いた先にあった。商店街は大半がシャッター通りであった。このホテル（315 号室）には 20 時過ぎ到着。宿泊代は 5,200 円。ロビーの方に、時間があるようであったので、今回の旅行計画を PR する。奇想天外なプランに驚いておられた。ホテル近くのローソンで夕食を購入（1,612 円）。本日の営業キロは 39.9 km、万歩計は 86,721 歩だった。残念ながら愛用の IPOD も、結果的にはここで惜別となる。長い間お世話になりました。



名寄高校



名寄駅

第4節 3日目：6月22日（月）雨

夏至の日、6時前に起床。ホテルロビーで朝食。7時25分頃、ホテルチェックアウト。切符は7時35分頃から発売。運賃は南稚内まで3,670円であった。名寄発7時50分の電車で南稚内駅を目指す。本日、7時49分発の快速で旭川に向かうという年配の女性と名寄駅舎内で世間話をする。「神奈川から土曜日やって来て、昨日は和寒から名寄まで歩いた。そして、これから稚内から名寄まで歩く」旨を話すと驚いていた。「頑張って下さい」と激励を受ける。



ニュー富士屋ホテル



名寄駅で沢山の高校生が下車。名寄駅を過ぎると、山間が続く。特急停車駅でもある美深駅でかなりの乗客数が下りる。音威子府（おといねっふ）駅で数人の乗客が降り、乗車は私だけとなる。この駅（到着は8時52分）で28分の待ち時間がある。この時間を利用し、駅舎の周りの風景を撮影する。先日のタクシー運転手のお話等によると、この辺りから風景が変わるとのことであった。



名寄駅



音威子府駅を過ぎると、天塩川に沿って暫く鉄道が続く。天塩川に沿って山々が続く。しかし、木々にそれ程急激な変化は感じられなかった。停車しない駅があった。糠南（ぬかなん）駅、安牛駅、南幌延駅、そして上幌延駅。幌延駅には 10 時 30 分到着。雨でホームがぬれていた。ここで 15 分の待ち合わせがある。豊富駅から数人の乗客が乗車。この駅から風景が急に変わる。牧草のロールや牛を窓から観察。湿原が多くなり、高い木々が姿を消す。明日、踏破する徳満駅、兜沼駅、勇知駅、抜海駅そして南稚内駅と窓から道筋を確認する。難しいようなコースであった。南稚内駅には 11 時 51 分到着。小雨が降り続いていた。



音威子府駅



兜沼駅

兜沼駅以降の風景



南稚内駅



北の香りのある波止場横丁

12 時頃、駅前にあるホテル宗谷に立ち寄り、リュックサックを預けると同時に宅急便で送った山崎さん用手土産をもらい、2.7 km先の稚内駅を目指す。雨のせいか、歩き当初、数十年前に痛めた左肘に少し痛みが出て、不安なスタートとなる。途中、12 時 35 分、波止場横丁にある「北の香り」で塩ラーメンと餃子を頂く。女将さんと常連の方に今回の旅行の件を話す。ここでも驚きと凄いのメッセージがある。この店で 20 分位、食事をしながら雑談し、稚内駅を目指す。少し温まったのか、左膝の痛みは解消し安堵。駅には 13 時 12 分到着。駅前で感無量の思いで種々のアングルで稚内駅をデジカメに収める。学生時代の遠い昔が若干蘇る。同時に年月の速さを痛感。



稚内駅



13 時半頃、山崎さんに電話する。「午後は仕事を止めたので、15 分位すればそちらに向かいます」との連絡を頂く。そして、山崎さんに車で宗谷岬界隈の観光地を先ず案内頂く。日本最北端の地、宗谷岬前（14 時 30 分）で 2 ショット記念写真を撮ってもらう。隣の間宮林蔵前では単独で。



間宮林蔵記念碑

次に稚内ロータリークラブ（15 時 46 分）に立ち寄り、お茶をご馳走になる。稚内市北方記念館（16 時 30 分）を観光。当時の稚内と樺太との状況、9 人の乙女の写真、伊能大図（北海道部分）、鹿、熊のはく製等……。非常に勉強をさせられた。この塔は当時 100m の高さにしようと計画したらしいが、風の影響等から 80m 位の高さに留めたとの話を山崎さんから伺いする。



稚内市北方記念館にて



この記念館でも事務室に立ち寄り、コーヒーをご馳走になる。この記念館で 30～40 分滞在。次は数分先のノシャップ岬を案内頂く。移動中、ロシア語と英語の相違点を教わる。英語の S がロシア語では C、N が H・・・英字をひっくり返したような活字もある。結構、稚内はロシア人が多いとのこと。牧草を包むロールについても教示頂く。利尻富士は抜海から見る風景が一番綺麗とのこと。大手コンビニは名寄まで。名寄を過ぎると運送費等の関係でコスト高になる。それ故、代わりにセイコーマートがある。等々・・・。九人の乙女の像、ノシャップ岬（17 時 3 分）等で記念写真。途中、南極大陸で話題となった太郎・次郎の銅像もあった。この後は、抜海に向かいアザラシ館を案内頂くが生憎、数年前に閉館になっていた。残念。そして、宗谷ホテルに 17 時 40 分頃送って頂く。18 時半、ホテル前で夕食のため再度待ち合わせということで別れる。この時間を利用し、湯船に入る。



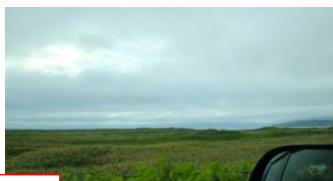
文芸の小径

太郎・次郎の像

乙女像



ノシャップ岬



抜海



ロシア語の表示



18時半、山崎さんに迎えに来てもらい、妹さん達（弘子さん、啓子さん）と一緒に全日空会館でご馳走になる。あっという間に楽しい2時間位が過ぎ去る。9時半頃、車でホテルまで送って頂く。本日は、Rひやく会の本内さんのお蔭で、稚内在住の山崎ファミリーにお世話になり感無量。いい思い出の一頁となった。明日からは、南稚内から名寄までのスリル満点のジョギングとウォーキングの旅が始まる。同時に楽しみでもある。そういうことを考えて就寝。



ホテル宗谷



南稚内駅

第5節 4日目：6月23日（火）曇り／晴れ

3時前に起床。3時半ホテルから数分先のセイコーマートに訪問。そして、朝と昼用のむすびやパン等を購入。沿線にはコンビニがないと思われるため、昼食を用意。912円要する。3時半と早かったが、稚内では辺りは少し明るくなりかけていた。山崎さんの言葉を思い出す。初めて、新調したジョギングウェアに袖を通す。アンダーシャツを半袖にするか長袖するかを迷ったが、半袖とする。そして、ジョギング用のショルダーバッグを。念のため、長袖を持参する。予報から雨は降らないと判断し、傘は用意せず。Ipodも何処かのポケットに入れるが、何処かで紛失。未だにどこでロストしたのか不明。正に不思議なメークドラマであった。体調を万全に整え、5時20分頃ホテルを出るが、駅舎には入れず。それ故、再度ホテルに戻り、ロビーで新聞を。電車は6時8分の1本の電車しかないので、ホテルから1分のところであるが慎重となる。5時35分、ホテルを出て、南稚内駅へ。切符の発売はしておらず待たされる。駅舎の中で、宗谷本線や天北線の主要な駅舎の写真があったので観察。そして、昭和56年当時と現在とのJR路線図を。30%位廃線の箇所があり、寂しい気持ちになる。鉄道は地元市民の足であり、採算だけでは割り切れないところがあるような気がする。地方の過疎化の速度を少しでも抑制するためにも……。南稚内6時8分の列車で豊富駅に移動。運賃は840円要する。列車は湿原の中を駆け巡る。非常に神秘的な風景であった。



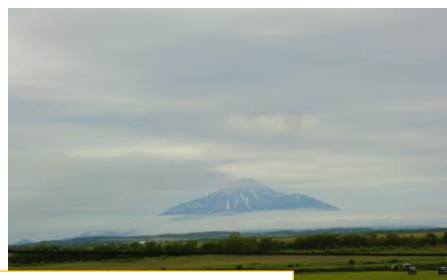
南稚内駅





豊富駅

豊富駅には6時52分到着。駅前で明日から宿泊する松屋旅館があったので、夕食のお願いもあるので立ち寄る。しかし、私の名前は記録簿にはなく、ビックリ。メモを取り出し、1月末に予約した旨と予約の窓口の方は伊勢さんと申し上げる。「それは私です。ご主人から角部屋が空いているだろう」と、応対があり安堵。名寄から稚内まで、泊まる宿が少ない。それ故、もし松屋旅館がNGであれば、旅行計画が大幅に狂ってしまう。非常に焦燥した瞬間であった。同時に安堵した瞬間であった。コンビニも近くにあるとのことであった。朝食は7時からのことで、ダメ。取りあえず、明日の夕食をお願いしこの旅館を後にする。



ジョギングスタート

利尻富士

走りは7時頃から。ところが走ろうとした瞬間、ポツリの雨を感じ、パニック状態になる。コンビニを探そうとするが見つからず。往来の人に聞こうとするが見当たらず。運よく、JAのシャッターを開けている方にコンビニの場所を聞くことができ安堵。ジョギングで国道40号線にあるセイコーマートに向かう。ところが、傘は売り切れとのこと。がっかりしてコンビニを後にする。もしかすると、カッパーはあるかも知れないと思い、再度、コンビニに戻り問い合わせがこちらの方もなし。それ故、天気予報を信じ、「いずれ止むだろう」の神頼みの心境で、5km先の徳満駅に向けて走り出す。7時15分頃であった。



徳満駅への路 徳満駅

7 時 34 分、旭川から 214 km 地点で、左手に利尻富士をキャッチ。これから。利尻富士を見ながらのジョギングとなる。国道に徳満駅はあるが中々到達せず。7 時 40 分頃、精神的にも落ち着き Ipod でも聞こうとするが、なし。この時はホテルに置き忘れてきたのだろうと解釈。それ故、音楽なしのジョギングとウォーキングとなる。やっとのことで、7 時 51 分徳満駅に到着。駅前には、民家もあった。8 時 22 分、辻牧場前を通過。8 時 27 分、旭川から 219 km 地点に達する。8 時 42 分、稚内まで 29 km 地点に到達。8 時 52 分、旭川まで 222 km 地点通過。記録をメモしながらのジョギングは結構大変。9 時 4 分、サロベツファームあり。9 時 8 分、国道 40 号線から左折し 1118 号線に入る。



ロール施設 間もなく兜沼方向へ

その先に赤い橋の芦川橋（無名川）があった。本日は万歩計を所持せず。それ故、この川幅を計れず。この辺りは利尻礼文サロベツ国立公園とあった。それ故、これまで本州等では見られない神秘的な風景が辺り一面広がっていた。9 時 21 分、歩数でカウントした佐呂別川を渡る。9 時 50 分、やっとのことで兜沼駅に到着。途中、兜沼公園やキャンプ場の案内板あった。近くには結構民家があった。駅の向こうには兜沼があった。駅前で宅急便の女性ドライバーに勇知駅方面を聞く。「真っ直ぐ進めば行けます。凄いですね」と励ましの言葉を頂く。10 時 16 分、豊富町から稚内市に入る。稚内市のマークには利尻富士があった。



豊富町発祥の碑

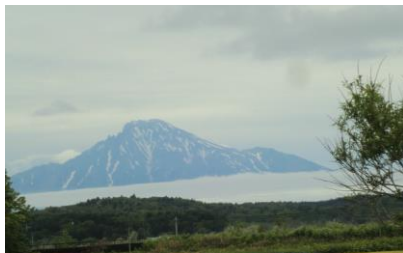


兜沼駅

10時38分、勇知駅への分岐点に到着。10時40分、牧草を包んだトラックと対面。トラックの荷物の紐を点検していた。10時50分、高台から利尻富士の素晴らしい光景をゲット。この辺りが、営業キロ8,000kmの通過点であろう。10時54分（勇知連絡道踏切）、11時2分の2回踏切を横切り、勇知駅（11時11分）へ。駅舎は電車の車両を改良した駅舎。この種の駅舎は、安牛駅、問寒別駅、下沼駅等でも見られた。この駅で平成12年5月から始めた鉄道つたい歩きの営業キロが、8,000kmを突破。記念すべき駅となった。なお、7,500kmは宗谷本線の蘭留駅。駅前には上勇知診療所があった。郵便局もあり。本日のコースの中では、民家の多い駅前であった。



豊富町から稚内市へ



利尻富士が最高 勇知駅

11時25分、勇栄橋（十四線沢川）を渡る。11時34分、牧場で乳牛を見る。青々とした牧草を美味しそうに食べている牛もいれば、ゆったり休んでいる牛も。このような長閑な光景を見ると、数十年前の両親の姿を思い出す。同時に白黒のまだら模様の愛犬セブンを。11時40分、稚内20km、抜海7kmの道路標識前を通過。近くに、「Kaayami Farm」（ゆうち自然学校）があった。11時43分、勇知跨線橋を越え、鉄道の左側となる。この辺りから山間

で坂道が続く。背負ったバックのスズが「チリンチリン」と鳴り響く。ウォーキング時では余り鳴らないが、ジョギングになると効果倍增。このスズもロストするため、最初で最後の体験となった。恰もトナカイのサンタクロースのような心境。



牧場地帯を通過

11時58分、大野牧場前を通過。沢山の乳牛がゆったりとした大地に横たわっていた。牧場には沢山のロールが横たわり牧草を乾燥させていた。ここで乾燥された牧草は、冬場の牛の餌として活用されるとのこと。12時16分、鉄道が左手にあった。カラスの鳴き声を耳にする。ここから、抜海駅まで鉄道に沿って歩くこととなる。この辺りから、曇り空から晴れとなる。それ故、若干暑さを感じる。でも、心地よい風でジョギングとしては最高の環境。12時46分、オスの牛と対面。メスの牛とは多少顔つきが違っていった。



抜海駅への路

牡牛と対面



抜海駅

13時2分、抜海駅に到着。抜海駅前は、民家は数軒で閑散としていた。13時15分、T路地の稚内天塩線（106号）前の木陰で、朝用意してきたむすびで昼食。ここで、10分位休息する。この道路は、地図で確認したところ、稚内西海岸に沿って続いていた。途中、抜海原生花園があった。この道路からの利尻富士の眺めも印象に残るものがあった。ここからもジョ

ギングとウォーキングの併用で進む。14時27分、ノシャップ岬方面に向かっている自転車野郎に挨拶される。



道道 106 号線へ（この界限で昼食）

14時32分、利尻礼文サロベツ国立公園があった。14時36分、道端で蛇に出くわす。慌てて、草村に移動。歩いても歩いても海岸線が続く。それにしても長い長い海岸線であった。15時、ノシャップ岬方面と稚内市街への分岐点に到達。稚内市街への道路は、山間に向けて急なスロープであった。15時8分、白い鳥居があった。この道路からノシャップ岬への道路がはるか下に見える。15時20分、熊出没（平成27年5月20日）の注意看板を目にする。



利尻礼文サロベツ国立公園 原野



ノシャップ岬方面

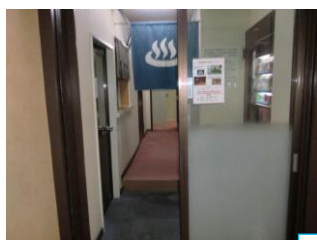
15時11分、トイレ休憩場に立ち寄る。ペットボトルが空になるが、抜海駅からコンビニや自動販売機は一切なし。この休憩場には、残念ながら、自動販売機はなかった。喉がからからで進む。15時32分、モダンな住宅街が見えて来る。15時50分、やっとセイコーマートがあり、水分を補給。16時16分、南稚内踏切を横切り、鉄道の右側を歩く。その先に南稚内駅（16時25分）到着。ウォーキングとジョギングの併用であったため、所要時間は、10時間を切った。嬉しい限りだ。早めにホテルに着いたので、ゆっくり湯船につかり、ホテル近くの甚八（18時）で夕食を摂る。生ビールを飲みながら、お任せ定食（1,300円）は最高であった。ただ残念なこともあった。それは、長年愛用したIpodの紛失が事実となったこと。心当たりを問い合わせたがなし。本日の営業キロは、40.8km、万歩計を持参しなかったため8万歩とする。本日は、初めてウォーキングとジョギングの併用でいい汗をかくと同時に、今後の歩き方に大きな自信を得る一日となった。



南稚内駅への路 やっと民家



南稚内踏切 南稚内駅



ホテル宗谷



甚八

第6節 5日目：6月24日（水）晴れ

6月24日も昨日と同様3時前に起床。3時半頃、昨日と同様、セイコーマートに行き、本日の朝食と昼食を購入（648円）。本日の作戦を考え体調を整えて、ホテル宗谷を5時35分チェックアウト。本日は、南稚内駅（6時8分発）から佐久（7時54分）まで移動し、佐久から問寒別までの22.2kmの踏破。運賃は2,160円要する。豊富駅と幌延駅で大勢の高校生が降りる。昨日歩いた南稚内～豊富までの風景が懐かしくなる。豊富から佐久までを窓から観察。明日歩く問寒別から雄信内（おのつふない）は、山間で難しいようなコースであった。見送りの可能性のある糠南駅をデジカメに収める。問寒別から乗ってきた女性の乗客に糠南駅踏破の道筋をお伺いする。糠南駅は問寒別方面に戻ればできるとのことで、当初パス